さよなら わかくさ号

9年間の感慨のせ

最終列車、品川を出発

ながいあいだ「わかくさ号」は走った。関東地区の中学校修学旅行専用列車として誕生してから九年間、約五十七万の明るい童顔の生徒たちをいっぱい乗せて走ったのだ。その「わかくさ号」もことしで使命を終え、来年からは新幹線一本になる。最終列車の出発する六月七日、全修協と関修委では品川駅で、ささやかではあるが心をこめた歓送式を行なった。多くの思い出を抱いた「わかくさ号」は、定刻十時十三分、栃木県の中学生約八百名をのせて関西へ旅立っていった。

この日、品川駅の臨時列車用の十一番ホームには名取品川駅長、同助役、国鉄首都圏本部係員、全修協からは山本理事長代理として白滝事務局長、岩崎研究部長、早川広報部長らが集まり、栃木県から出発した「わかくさ号」の最終列車を待つ。すでに夏の前ぶれを告げる暑さも、東京湾を吹き抜ける涼風に拭われてこころよい肌ざわり。

十時十一分、青色にふち取った十二両編成の「わかくさ号」がはいってきた。栃木県那須郡西那須野町の西那須野中学校二百四十三名、同じく三岳中学校百九十五名、黒磯中学校三百五十四名だ。

一両目から降り立った黒磯中学校の大貫一校長と同三年生田中寛君は用意された花束を香取駅長と乗務員の北村俊男、鷲津茂男両運転士に捧げ、〝ながいあいだご苦労さまでした〟と感謝の言葉を述べた。窓からいっせいに喚声とともに拍手が鳴りひびく。真白なユリとユキノシタ、ピンクのカーネーションの花束が、この日の感謝を色どり、居揃ぶ人々の心をゆすぶる。

停車わずか二分半という短かい時間ではあったが、関係者にとってはこれほど感慨の深い時間はなかったであろう。

やがて鳴りひびく発車のベルがおわると、若い八百の魂をのせた最後の「わかくさ号」は静かにホームを離れていった。

「わかくさ号」最終列車の歓送式で国鉄へ花束をおくる（品川駅で）

教育関係者の愛情みのる

【解説】昭和三十四年四月、修学旅行専用電車「ひので号」が誕生し、東京都の中学生は、計画的に安全快適な修学旅行ができるようになったが、東京都周辺の関東各県の中学生は、その恩恵に浴せず、苦しい修学旅行を行なっていた。

同じ事情が「きぼう号」を利用できる大阪、京都、神戸三市と周辺地域との間に生じ、その教育格差に悩んでいた。昭和三十四年いらい全修協では関東、近畿地域の教育界とともに、この問題を解決するため、国鉄当局と関係方面に、独立編成の専用電車新設運動を推進してきた。

しかし、当時の東海道線は非常に過密ダイヤのため、その設定は困難な状態にあったが、この隘路を打開すべく、ねばり強い運動を継続した。

三十八年五月八日、当時の大蔵政務次官原田憲氏、全修協理事長山本種一氏の尽力により、国鉄当局は、教育上の見地から輸送上の困難を克服、次の通り決定した。

①東海道新幹線完成後は関東、近畿周辺地域中学生のため、修学旅行専用電車を新設する②それまでの暫定措置として専用車両八両を新造し、ひので号、きぼう号に増結して該当府県の生徒用にあてる③時期は三十九年四月一日とする④建造費及び電源施設費一億七千万円の利用債は全修協が引受ける。

この決定に相応じて、関係地域の教育界は、その専用電車の教育的運営のための修学旅行委員会の組織活動に入り、関東地区では会長田村遂氏（群馬県教育長＝当時）運営委員長黒田邦博氏（関東地区中学校長会長＝当時）が決定し、いらい五十五回にわたる運営協議の会合を行ない、輸送面並びに研究集会の開催などの事業を行なってきた。

三十九年四月五日、第一陣が出発し、四十七年六月七日の最終学校まで、九年間に五十六万七千余名の修学旅行を安全快適に無事故に行なったのである。

その間、四十年十月一日から十二両独立編成の「わかくさ号」となり、四十六年三月十六日には、新幹線修学旅行専用電車に一部移行し、従来の「わかくさ号」と二本建て運行時代に入り、今後は新幹線に「わかくさ号」の歴史と教育使命と教育関係者の愛情が、全面的にひきつがれることになりいわゆる「新幹線わかくさ号」の時代に進み、わかくさ精神は、新しい輸送構造の中に新しい息吹きをふきこんだのである。

修旅に団体保険

傷害と賠償　掛金は1人30円

近修委

近畿修学旅行委員会（久保田八郎委員長）では同地区から修学旅行に参加する中学生と付添教職員のため傷害と賠償の保険をつけて万全を期することになり、近畿日本ツーリスト、交通公社、東京海上火災（代表幹事）の三者間で協約が成立、本年度から実施する。

修学旅行中に起きた本人の傷害や対物事故などに対して保険金が支払われるもので保険料は一人三十円、保険金は傷害＝五十万円、賠償＝対人一名五十万円、対物一事故五十万円、一事故百万円、医療＝一日四百円でその内容は次のとおり。

傷害事故＝修学旅行中に引率の教職員や生徒が交通事故を含む偶然の事故でケガをしたとき①医師の治療を受け、平常の学校生活ができるまで治療日数一日につき四百円（被害の日から百八十日を限度）②後遺傷害（ケガのため被害の日から百八十日以内に身体に後遺傷害が生じたときその程度によって十五万円－五十万円、例えば一生身体が動かなくなったとき五十万円、両耳の聴力を失なったとき四十万円、一眼が失明したとき三十万円、一眼または一脚を失なったとき三十万円③ケガのため被害の日から百八十日以内に死亡したとき五十万円（教職員の保険金は上記の二倍）が支払われる。

なお、これらの保険金は生命保険、健康保険、学校安全金の保険金および加害者からの賠償金などに関係なく支払われる。

賠償保険＝修学旅行中に引率の教職員や生徒が他人の身体を傷つけたり、財物をこわしたために学校が法律上の賠償義務を負担したばあい、次の金額を限度として実際に支払った賠償金から千円（免責額）を差引いた額を保険金（訴訟費用を含む）として対人一名五十万円、対物一事故五十万円、一事故百万円を支払う。

また、保険金の支払いを受けられないのは傷害事故のうち、教職員、生徒の故意によるもの、ケンカや自殺、犯罪、教職員の脳疾患、疾病、心神喪失、目まい、泥酔、天災に起因するもの。賠償保険では船舶、自動車の使用・管理に起因する事故や教職員、生徒が他人から預った物品に生じた事故、天災によるものなど、となっている。

〝基準は変えない〟

地方教委の要望認めず

青森県

【青森】青森県都市教育長協議会の定例会は五月九日、五所川原市議会内に平川清県教育長はじめ八市の教育長が集って開催、席上「修学旅行について現行の小学校一泊二日、中学校二泊三日、高校五泊六日をそれぞれ一泊一日ずつ増やして小学校二泊三日、中学校三泊四日、高校六泊七日を基準としてほしい」と要望した。

県教委では昨年十一月二十四日付で本年度から、交通不便な学校で日数の延長によって教育的効果をいちじるしく増大することができる場合で、各教委が認めるものに限り小学校二泊三日、中学校三泊四日、高校六泊七日にすることができるようにしたが、各教委ではこれらの特例を〝基準〟にしてほしいというもの。

例として五所川原市の中学校は東京方面へ旅行しているが、朝の三時半には出発するという無理な日程となっていることなどが挙げられた。

これにたいし平川清県教育長は「早朝出発や深夜帰着など日程上の無理があったり、見学個所が多すぎるため児童、生徒の印象を薄め、教育的効果を減殺している例もみられるが、このような問題は日数増により安易に解決することは望ましくない。むしろ修学旅行の重点的なねらいや目的地の精選などを行ない、できるだけ日数を延長しないで目的が達成できるよう適切な計画をくふうすることが望ましい。日程延長が許されても見学個所をふやしたり、遠い目的地を選んだりすることは特例の趣旨に反するから留意してほしい」と、あくまでも枠内での運営を強調した。

同県では費用節減などの目的から四十三年度以降、従来の小学校二泊三日、中学校の四泊五日、高校の八泊九日を現行の基準に改正している。

県教育庁堀徳郎指導主事の話　一率に日数を延長する考えはない。特例として認めるときも教育効果をじゅうぶんに発揮できることを条件にするよう各教委を指導している。

引率費の獲得へ

埼玉県修旅委で運動

埼玉県中学校長会では四月二十一日の理事会と同二十六日の各部委員会で修学旅行委員会の本年度役員を決定するとともに運動方針をきめた。

①修学旅行引率費を一般旅費の枠外として支給されたい②四十九年度の新幹線による関西方面修学旅行割当ての基本調査を行なう③関修委と共同して研究協議会を開く、など。

①については現在、県内に中学校二百七十一校、約二千学級あり八五％が関西へ、残りが東北その他へ行っている。一学級あたり二名の教職員、管理者一名とすると四千二百七十名になり、関西方面のばあい国鉄運賃、料金などの値上げを含んで一人当り約一万二千円として総額五千百二十四万円。

東京都は一人当り一万八千円、神奈川県一万五千円、千葉県六千円が支給されているが、埼玉県はゼロ。公費からの支給がないと当然PTAか父兄の負担となり、物議をかもす原因ともなりかねないとしている。このほか特勤手当日当千二百円も獲得する方針をたてている。

本年度の役員は次の通り。敬称略。

▽会長＝新井敬蔵（向陽中）▽委員長＝高田福松（幸手中）▽副委員長＝荒幡義輔（本太中）▽委員＝今井清市（大久保中）山田孝（上尾中）多田力（狭山東中）岡野大三（都幾川中）高橋万二（美里中）渡辺房次（富士見中）須永俊光（行田中）清水淑郎（三郷南中）

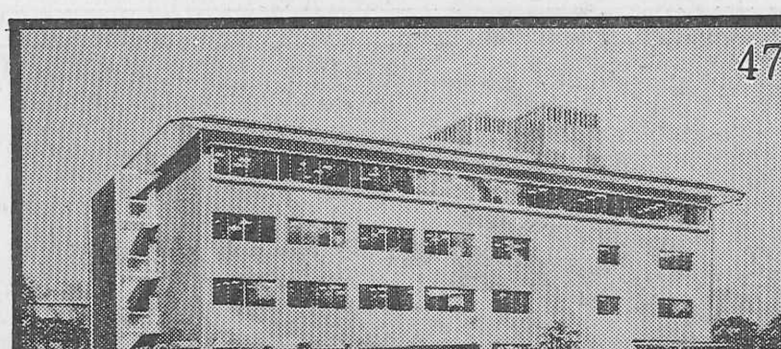
あるくみるきく

ささやかな冊子の名前です。書店にも出さず、これといった広告もしてきませんでした。でも，熱心な読者に支えられて，もう5年も続いて発行しています。旅をする人、土地に住む人の目を通して、その土地のあるべき姿を正確にみつめていきたい――小さな冊子にそんな大きな夢を託しています。

●年間購読料 700円(〒共)近畿日本ツーリストの各営業所か、直接当研究所宛に現金または切手でお申込み下さい。
●見本をお送りします。

日本観光文化研究所

東京都千代田区神田松永町11－2　近畿日本ツーリスト内　TEL (03)255-7111(内)274



47年3月1日オープン　空も澄む近江路の旅

〈収容〉800名様
〈食堂〉550名席
〈浴場〉1時に150名
〈設備〉全館冷暖房
〈防災〉諸施設完備

修学旅行の専用ホテル

大津市におの浜3丁目1－4

びわ湖ツーリスト・ホテル

《予約受付中》

電話　大津(0775)24－2321(代表)
大津(0775)23－0408(直通)

修学旅行

私はこう思う

ながい眼でみよう

葛巻政男

多少アマノジャク的ないい方であるが、中学校程度の生徒では名所旧跡なんて大して面白くはないはずである。百聞は一見にしかずはたしかに真理ではあるが、この情報化時代にテレビのチャンネルをひねれば、いつも一見をしているのであって、年中、修学旅行をしているようなものである。

だからこそ修学旅行無用論がとびだすのであって、まして一億総レジャーのこの時代には、家族全部で関西者は関東に、関東者は関西にでかけるのはお茶の子さいさいである。

たしかに教師達にとって修学旅行は煩わしい。すんで帰れば一㌔やせるというのも本当である。だからといってすぐに廃止に傾くのも、ちょっと飛躍がある。

ほんとうの楽しみは、友達と同じ列車に乗り、あまりおいしくもない食事をいっしょに食い同じ布団の中にくるまって暮らす中にある。先生たちに寝ろ、寝ろといわれても、ひそひそ話し合い、先生達の姿が遠のくとゲラゲラ笑い、かくれて菓子をくい、見つかって廊下に座らされるうちに絶対に学校では味わえない楽しみがある。

枕を投げ合うことはよくないことだが、いいことだけが楽しみではない。ひねくれた見方かも知れないが、人間の想い出や楽しさは、まじめなコースの中にはない。むしろ、もろもろの失敗や滑稽が核になり、それに付着した形でしかまじめは残らない。あの宿であんな事件があった。あそこはどこだったっけ。ああ京都だ。そういえば御所や清水寺があった。仏様がいらっしゃったという所である。忘れ得ない事件の周囲に行先地の風物が同心円的に付着しているのである。その意味で修学旅行は他に類を見ない時と場がある。

自由と開放、自主と独立、監視と放縦、失敗やユーモアなどが真面目な理屈ではなく、こたえられない体験として体験されるのだ。

うれしいはずである。他の行事では代えることができないのだ。無用論や廃止論は人生の機微をわきまえざる人間の機械論にすぎない。大いにやるべし。教師は大いに叱るべし。やらせるべし。長い目で見てごらん。その方がずっと教育的なのだ。

（前東京都新宿区西戸山第二中学校長・教育評論家）

モデル・コースつくる

湖南めぐりなど5種類

滋賀県

びわ湖を中心とする修学旅行が人気をよび、ことしから関東地区でも実施している中学校が増えてきた。いままでの京都、奈良のほかに滋賀をとりいれて多彩なコースとなっているのが特色。滋賀県修学旅行誘致促進協議会が作成したモデル・コースは次の通り。

Aコース（比えい山を起点とした湖南めぐり。二日目は奈良、京都へ）

【第一日】京都駅ー京都市内ー比えい山ドライブ・ウェイー延暦寺ー奥比えいドライブ・ウェイーびわ湖大橋（びわ湖タワー）ーびわ湖バレイ（または日吉大社、三井寺）ー旅館。

【第二日】旅館ー石山寺ー南郷洗堰ー天が瀬ダムー宇治平等院ー春日奥山バライブ・ウェイー若草山ー南大門ー大仏殿ー春日大社ー法隆寺ー薬師寺ー旅館。

【第三日】旅館ー西芳寺ー金閣寺ー二条城ー清水寺ー京都駅。

Bコース

【第一日】京都駅ー大津インターー八日市インターー西明寺ー彦根城ー安土城跡（風土記の丘）ーびわ湖大橋（びわ湖タワー）ーびわ湖バレイー奥比えいドライブ・ウェイー延暦寺ー比えい山ドライブ・ウェイー三井寺（日吉大社）ー石山寺ー旅館。

【第二日】旅館ー京都南インターー西芳寺ー西山（東山）ー二条城ー旅館。

【第三日】旅館ー薬師寺ー法隆寺ー春日大社ー若草山ー二月堂ー大仏殿ー南大門ー平等院ー京都駅。

Cコース

【第一日】米原駅ー彦根城ー彦根インターー栗東ーびわ湖大橋（びわ湖タワー）ーびわ湖バレイー旅館（またはびわ湖大橋ー日吉大社ー三井寺ー石山寺ー旅館。（または日吉大社ー奥比えいドライブ・ウェイー延暦寺ー旅館）。

【第二日】旅館ー西芳寺ー嵐山ー天竜寺ー大覚寺ー竜安寺ー国際会議場ー清水寺ー二条城ー旅館。

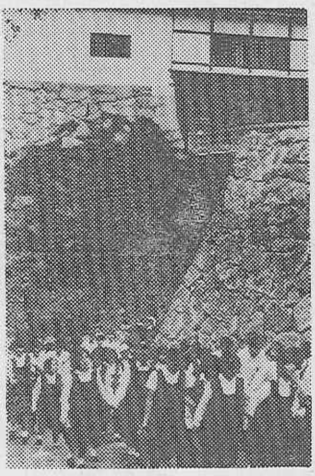
【第三日】旅館ー薬師寺ー法隆寺ー春日大社ー若草山ー二月堂ー大仏殿ー南大門ー新若草ドライブ・・ウェイー京都。

Dコース

【第一日】米原ー彦根城ー彦根インターー栗東インターー石山寺ー三井寺ー日吉大社ー比えい山（奥比えい）ドライブ・ウェイー延暦寺ー旅館。【第二日・第三日】B、Cコースの行程表に接続。

Eコース

【第一日】米原ー彦根城ー賤ケ岳古戦場ー奥びわ湖パーク・ウェイーびわ湖バレイーびわ湖大橋（びわ湖タワー）ー日吉大社ー奥比えいドライブ・ウェイー旅館またはびわ湖大橋ー石山寺ー旅館）【第二日・第三日】B、Cコースの行程表に接続。


修学旅行生で賑わう彦根城

科学技術館の夏期休館　科学技術館（東京千代田区北の丸公園）は七月三十日（日）から八月四日（金）まで六日間、展示品修理などのため夏期臨時休館する。

一日はゆっくりと

＝修学旅行で〝驚き〟を発見したい＝

宮本常一

宮本常一氏

むかしの旅は人と人とが触れ合う機会として持たれ、また、それが楽しみでもあったようである。

私は、むかし、小学校の教師をしたこともあるが、子どもの遊びのなかに、例えば考古学的、民俗学的な発見が存在していることを知った。古い教育は明治時代以後、儒教を除いて新しいものに移っていったが、歩くこと、すなわち旅行だけは今でも伝わり、これが遠足であり、修学旅行である。

現在のように旅行が盛んになったのは学校で遠足や修学旅行をやっていることが大きな要素とみられ、もし学校で遠足や修学旅行を行なわなかったら今日のわれわれの旅はなかったであろう。しかも面白いのは、とくに戦後、一人旅が影をひそめていることである。これはわが国の旅の大きな特色である。グループや団体で旅を楽しむーこれが習性のようになってしまった。日本人の大多数は無宗教に近く、そのため孤独に耐える限界が浅いのである。一人旅に出て人生をみつめることが少なく、これは外国のばあいと大きな違いである。

○……

日本人の旅はまったく目まぐるしい。駈け足旅行である。これが修学旅行にまで結びついてしまったかのようである。修学旅行ではせめて一日だけは、ある一定の場所をゆっくり歩かせてみたいものだと思う。

例を日光の杉並木に取ってみよう。そこには徳川三百年にわたる歴史がひそんでおり、子どもたちは大きな何かを発見するにちがいない。当時の公卿たちは京都から日光まで参詣にきたが、群馬県内の街道は、木一本もない殺風景さに驚く。まったく異様な感じを受けるが、このように街道一つでさえ二つの文化の差がありありとわかるのである。人と人との交わりばかりでなく、人手の加わった第二次自然が、旅のなかに含まれることによって〝考える旅〟がそこに誕生する。旅することによって人と人とのつながり、人と自然のつながりを発見することである

「驚くことが一つあればそれでよい」と、私は修学旅行にいく息子にいったことがある。たとえば奈良の大仏だが、一千年前に日本人が作ったものかどうか。中央集権のための象徴としてのその大仏をよく見てくることだ。また、大仏再建のとき、下手な首をつけたのはどういう人たちだろうか。そういうことも見学の課題として考えてみるように話した。帰ってきた息子は「関東にはなぜすばらしい仏像が少ないのか」と疑問を持った。それを解いてゆくのが彼のこれからの仕事の一つでなければならない。

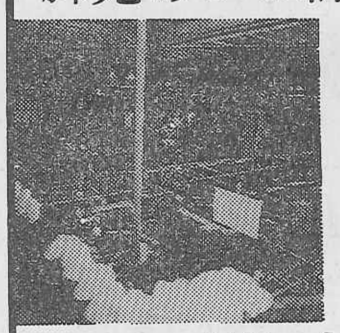
大仏の修復はすべて勧進によって行なわれた。これは民衆の力によったものである。お水取りで有名な奈良の二月堂で用いる青竹は五年ほど前までは奈良盆地の村の人々が黙って運んでいたほどである。庶民が互いに力をあわせて、仏を守った。奈良では戦争がなかった。それは大和平野の人々が奈良に兵を入れてはならぬという気はくを持っていたからである。

○…

私は以前、法隆寺へ行くために鉄道線路添いに歩いていた。大安寺の近くで一軒の農家に立ち寄った。その家には老婆がたった一人いた。百姓では食えないために孫も大阪へ出て働いているとのことだった。私は縁側でその老婆と語り合い、渋茶をご馳走になった。「孫もきっと誰かのお世話になっていることでしょう」といって、私のような見知らぬ行きずりの旅人に、その老婆は心づくしの歓待をしてくれた。そこに相互信頼の原理を見たように思った。このことが今でもはっきりと脳裡にきざまれている。

旅のなかで、たった一つでもよいから心に残ることがあれば、それでよいのである。（終）（武蔵野美術大学教授・日本観光文化研究所長・文学博士）

●京都駅より徒歩15分――
歴史がそのまま学べます。楽しめます！
平安文化の宝庫“東寺„の境内
450名収容・全館冷暖房完備
日観連加盟
東寺 洛南会館
京都市南区東寺東門入ル
TEL・075(691)3101～2
⊙ご連絡下さい。資料直ぐ送ります⊙


脚光あびる新しい修学旅行地
鈴鹿サーキットへ
★ 清潔で低廉なビレッジとホテル（防災設備は消防庁長官賞受賞）
★ 思い出を飾る感動のファイアー・ストーム
★ 本田技研鈴鹿工場で二輪車組立工程見学（土・日・祝日は工場休み）
★ たのしい遊園地には乗り物がいっぱい
お問合せ　（株）ホンダ ランド
〒104
東京都中央区銀座4-2-2
TEL　03（535）6251

名古屋・四日市←→新門司　就航中！
豪華フェリーで黒潮旅行！
●船舶概要　旅客　468人
設備　冷暖房完備、レストラン、ラウンジ、ゲームコーナー、売店、浴室、公衆電話　VTR等
瀬戸内航路
48年3月就航予定
新門司←→大阪南港
13時間
●船舶概要　旅客　930人
●団体予約は1年前より受付いたします
名門カーフェリー
本社｜京都市中京区新町通四条上ル☎京都075(221)7747～8